



立教大学名誉教授・自由学園最前学部長
「池袋＝自由文化都市プロジェクト」
実行委員長
渡辺 憲司

昭和20年4月13日、所謂、城北大空襲は、池袋を焼き尽くした。8月15日終戦。この時、壊滅的打撃からいち早く立ち上がったのは通称ヤミ市と呼ばれたマケットである。それは、灰土の中に点された熱い池袋人の思いの結晶であった。闇の向うに底光りがあり、大正ロマンが残光を繋いだ。

立教大学・自由学園など自由教育の地盤、アジアからの熱いまなざし、宣教師たちの西欧文化移入、絆に紡がれた雑司ヶ谷の文化遺産がこの地にあった。

池袋は自由文化都市の先進性を伝統としていたのである。ヤミ市を、人は自由市場と呼ぶ。ヤミ市の底深く流れていたのは、この自由への思いである。

自由は常に渴望から生まれる。人々の渴望の埒場がヤミ市であった。訪れた平和のエネルギーがこ

の地にあった。しかし、平和への思いの風化は進んだ。私たちはこのエネルギーの存在をしっかりと見つめなおしたいと考えた。

忘れてはならないと考えた。ここで、世界を牽引する日本のマンガ文化・アニメ文化の担い手が育まれ、池袋モンパルナスの若き芸術家の魂が躍動し、江戸川乱歩等の大衆文化が胎動した。笑いは楔を打ち開放され、映画館に鈴なりに立ち、歌謡曲やジャズと一緒に、恋は町にあふれ、躍動のリズムが劇場に鳴り響いた。

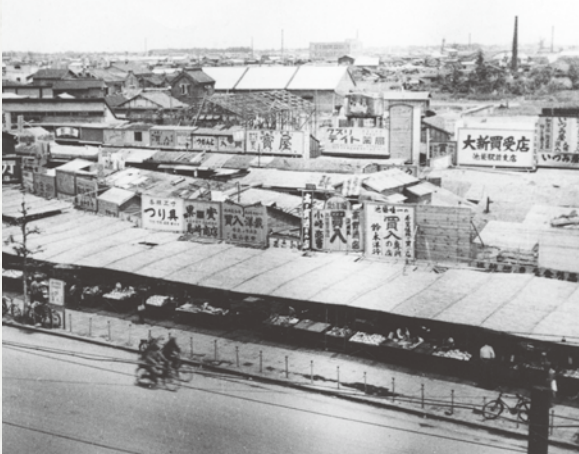
昭和30年代まで、池袋西口のヤミ市は、存続した。

池袋のヤミ市が担ったのは、飲食のみではない。衣料品、おもちゃや模型店が並び、多くの婦人子供を足止めたという。他のヤミ市以上に庶民の生活に密着していたのである。

戦後70年を迎える今日、文化創造都市池袋は大きな節目を迎えた。

この企画は「池袋学」の上に戦後池袋の平和への原点を刻む試みである。

ヤミ市 自由と平和の原点へ



池袋駅東口のヤミ市(1948年)【東京都建設局提供】



【豊島新聞社提供】



【松井一彦氏提供】

ヤミ市

戦後すぐ、焼け跡にバラック建て長屋式の露店が次々に現われた。連鎖商店街・戦災復興マケットと名づけたその多くは、統制対象の品をヤミ取引で販売するため「ヤミ市」と呼ばれた。ヤミ市は飲み屋街、無法地帯という印象があるが、一方で、配給だけでは暮らせない時代に、生きていくうえでの必需品を供給し、人びとに働く活力を与える食事や酒を提供する場もあった。そこには戦後経済復興をなしとげる逞しい力がみなぎっていた。

池袋のヤミ市は鉄道の要所として賑わった。池袋東口は昭和27年末までに解体されたが、西口では昭和37年まで存続した。

自由で柔軟な都市・池袋の未来を語る

戦後の池袋は、ヤミ市と呼ばれるマケットを中心に都市の活力を蓄えた。食料や物資を求めて多くの人々が集い、そこにさまざまな交流が生まれた。ヤミ市の世界は、混沌であると同時に新たな活力の源泉でもあった。また、日本が敗戦からの復興を遂げた後にも池袋の街にはヤミ市が残り、自由で柔軟な都市文化の基点となった。

本プロジェクトの開催に先立ち立教大学で行われるシンポジウムでは、講師に、川本三郎氏、マイク・モラスキー氏、吉見俊哉氏を迎え、戦後70年という地点から池袋の歴史と魅力に迫り、自由文化都市としての未来を考える。

9月12日(土) 14時～16時
太刀川記念館3F 多目的ホールにて

当時の人々のエネルギーに触れる多彩な企画

9月14日から10会場場で特別展示と企画がスタート。東京芸術劇場では、100枚を超える戦後池袋の写真パネルやヤミ市を描いた文学テクニカル、当時の大衆娯楽を表すカストリ雑誌、映蔭浩之による空間ディレクション十パルコキノシタのライブイベントも見どころ。他に江戸川乱歩の戦中記録や戦中・戦後の生活をテーマにした資料、映画、落語、トーク等を各会場で開催、シルバークの3日間(9/18(金)～20(日))は、池袋西口公園にヤミ市原自由市場が登場し、音楽イベントを行うなど、池袋を歩き巡りながら、戦後の大衆のエネルギーに触れる多彩な企画を楽しむことができる。

乱歩と池袋

生涯で四十回以上転居を繰り返した江戸川乱歩。その乱歩が40歳を迎えようという昭和9年、立教大学の隣に引っ越ししてからは、一転して70歳で亡くなるまで終生ここを動くことはなかった。

戦中は、それまで近所づきあいとは無縁のような暮らしを引いた乱歩が、町会の副会長を引き受け、几帳面な性格で当時の配給の配分や町会行事の記録などを微細かつ膨大に残している。



【主催】「池袋＝自由文化都市プロジェクト」実行委員会
(豊島区、東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)、立教大学)
【後援】豊島区観光協会、池袋西口商店街連合会、立教大学校友会
【特別協賛】ホッピービレッジ株式会社、株式会社シンコーポレーション、株式会社メロワークス、株式会社第一興商、一般社団法人日本音楽健康協会、東鳥信用金庫
【協力】NPO法人ゼファー池袋まちづくり、公益財団法人としま未来文化財団、都市出版株式会社、婦人之友社、新文芸坐、池袋演芸場、一般財団法人光文文化財団ミステリー文学資料館、一般社団法人落語協会、NPO法人「としまの記憶」をつなぐ会、豊島立教会、立教学院展示館、立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター、立教大学ESD研究所(※順不同)



実行委員会：info@ikebukuro2015.com
公式HP：http://www.ikebukuro2015.com

東武の商品券

東武百貨店でのお買い物をはじめ、東武グループ各社の施設や店舗でご利用いただけます。

券種 ●1,000円券 ●10,000円券綴
●50,000円券綴 ●100,000円券綴
[お求めは] 東武百貨店 池袋店 6F 1番地 商品券

TOBU

池袋 東武
豊島区池袋1-25-171-8512
TEL: 03-3861-2211
http://www.tobu-dept.jp

フジクスクエア FUJIKU SQUARE サンシャイン60階通入口

2F 新そば 宮城野 Milky Way
B1F アラビアン酒場 COCO BLANCA
1F SPAZIO

(株)富士喜
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-12-8
03-3982-7160

西武 池袋駅東口 バルコ
至新宿 みずほBK
三井住友BK 富士喜ビル

池袋のお土産に

創業昭和12年
季節の和菓子・甘味処
三原堂
〒171-0021
東京都豊島区西池袋1-2-0-4
電話 03-3971-2070 FAX 03-3983-2637
http://www.ik-miharado.shop-site.jp



戦後70年企画

ヤミ市から自由文化都市へ

戦後

池袋

会場

立教大学
東京芸術劇場
豊島区立郷土資料館
立教学院展示館
旧江戸川乱歩邸
池袋西口公園
自由学園明日館
新文芸坐
ミステリー文学資料館
池袋演芸場 ほか



2015

9.12土 14月-22火祝 18金-20日
シンポジウム 展示 池袋西口公園イベント

東京芸術劇場

9月14日(月)～22日(火・祝)

入場無料

ギャラリー 1 (5F)

「戦後池袋～活力の記憶を辿る」

ヤミ市時代の記録や記憶をさまざまな展示でご覧いただけます。厳選した写真パネルのほか、ヤミ市のスケッチ、ジオラマのVTR、ラジオ音源、カストリ雑誌などで当時の世相・文化を紹介するとともに、戦後池袋の記憶と未来を語るギャラリートークを開催します。オープニングではライブ・ペインティングも行い、自由で柔軟な活力に溢れた空気で会場を充たします。

ギャラリー 2 (5F)

「戦後池袋の住人・江戸川乱歩が視た世界」

昭和9年から終生、池袋に住み続けた江戸川乱歩。乱歩が作成したスクラップブック「貼雑年譜」の、刊行されていない三巻以降を紹介。乱歩が撮影した映像フィルムを上映し、戦中の資料などを展示します。立ち入ることのできない土蔵内の書棚を大型パネルでご覧いただけます。



松蔭浩之による空間プロデュース



立教学院展示館 (立教大学内 メーザーライブラリー記念館2階)

「戦中・戦後の立教学院」

9月14日(月)～22日(火・祝)

10時～17時 入館無料

池袋とともに歩み、「自由の学府」として発展してきた立教学院。その戦中・戦後の姿を、近隣の様子と合せて紹介します。



旧江戸川乱歩邸 (立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター)

「旧江戸川乱歩邸特別公開」

9月14日(月)～22日(火・祝)

10時30分～16時 入館無料

江戸川乱歩が、昭和9年から、70歳で死去する昭和40年まで、約30年間暮らした家です。書庫として使用された土蔵、応接間や愛用品に加え、少年探偵団シリーズなど、おもに戦後に発表された作品を中心とした特別展示を行います。



豊島区立郷土資料館 (豊島区立勤労福祉会館7階)

「池袋ヤミ市と戦後の復興《秋の収穫資料展》」

9月14日(月)～11月29日(日)

9時～16時30分 9/14～9/22は無休 (以降毎週月曜・第3日曜・祝日・10/13・11/24は休館)

戦後の池袋駅周辺復興の道筋を、池袋ヤミ市のジオラマ模型、関係資料、写真等を用いて紹介します。(展示みどころ解説9/26、10/24、11/28の14:00～14:40)



ミステリー文学資料館 (光文社ビル1階)

「没後50年―不滅の江戸川乱歩展」

9月1日(火)～10月3日(土) 9時30分～16時30分(入館は16時まで) 9/14～9/22は無休(以降毎週日曜・月曜・祝日は休館) 入館料300円

※9/14～9/22の期間中パンフレット提示にて入館無料。

没後50年を経ても今なお読みつがれ、映画・舞台・アニメに取り上げられ続ける、江戸川乱歩作品。その魅力の源泉を、横溝正史・高木彬光ら同志たちとの交歓を通じて探っていきます。明智小五郎が初めて登場する「D坂の殺人事件」の草稿も公開します。

新文芸坐 (マルハン池袋ビル3F)

●第1部 戦後日本の歩み、11の断面

7月26日(日)～8月8日(土)

『実録・連合赤軍』『日本のいちばん長い日』『映画 日本国憲法』など上映

●第2部 日本の戦争/今こそ、反戦平和の誓いをこめて

8月12日(水)～25日(火)

『真空地帯』『軍旗はためく下に』『激動の昭和史 軍閥』『黒い雨』『ひめゆりの塔』など上映

●第3部 焼け跡、やみ市、復員兵、基地……/戦後の風景と人々の暮らし

9月12日(土)～18日(金) 『仁義なき戦い』など上映

一般1,300円/シニア1,050円/学生500円/豊島区在住・在勤1,050円

◇お問い合わせ:03-3971-9422 www.shin-bungeiza.com

池袋演芸場

「笑いの戦後―落語界の復活」(仮)

9月21日(月)～30日(水) 昼の部:13時30分開場/14時開演

一般・学生2,000円/小人1,500円

9月下旬・昼の部(21日～30日)に禁演落語の上演や、さらに江戸川乱歩没後50年記念として乱歩落語等をお楽しみいただけます。

出演者:三遊亭円丈、鈴々舎馬桜(トリを5日間ずつ交互に勤めます)、三遊亭圓窓、林家正雀、三遊亭白鳥ほか。

◇お問い合わせ:03-3971-4545 http://www.ike-en.com/

池袋西口公園イベント

ヤミ市風 自由市場

開催日時 9月18日(金) 15時～20時
19日(土) 11時～20時
20日(日) 11時～19時

池袋西口 ホッピ―祭り

1948年(昭和23)に東京赤坂で生まれたホッピーは、ヤミ市の時代に焼酎割りとして愛飲され、復興をめざす大衆を支えました。会場では、珍しい樽詰めホッピーや、ホッピーを使用した本イベントオリジナルカクテルなどを提供します。地元池袋の商店街等の協力をえた飲食テントのほか、ヤミ市が鉄道各社による物資運搬等に支えられたことに鑑みて、豊島区の友好都市物産展等で盛り上げます。



【豊島区立郷土資料館常設展示室ヤミ市模型(部分)】

池袋 昭和懐メロステージ

9月18日(金) 16時～20時
19日(土) 12時～20時

歌謡曲、オールディーズ、ジャズ、カントリー、ブルースなど、戦後を彷彿させる音楽が昭和の世界へ誘います。

池袋 昭和歌謡 のど自慢2015

9月20日(日) 12時～19時

「昭和歌謡」をコンセプトとした素人カラオケ大会。優勝賞金5万円の他、パフォーマンスに秀でた出場者にも賞金・記念品を多数用意。

出場希望者は、申込用紙を事前に事務局まで郵送。(応募者多数時は事務局にて出場者を選定)

出演者	
塩谷 晃とコナ・アイランダース	Hawaiian
KHAMSHIN (カムシン)	Oldies Music
加藤町会長バンド	Country Western
やなかもなか	アイドル
谷名寛二郎	Funk
イツフォーリーズ	Rock
You-Yu Bounce	Jazz/Pops
東京シネマパラダイスオーケストラ	昭和歌謡
キミソラ	Blues
Eriko	昭和歌謡
crspsy sounds	Tap Dance

参加費:3,000円

募集期間:8月1日～31日

募集人数:80名

カラオケ機種:LIVE DAM STADIUM

プロデュース:エンジョイシング

日本で唯一のカラオケ評論家*

唯野奈津実

◎池袋昭和歌謡のど自慢2015特設サイト

http://s-nodojiman.com/

◎池袋昭和歌謡のど自慢お問い合わせ先

ike@s-nodojiman.com 担当:唯野(ゆいの)